森林管理署長等が語る！

利根沼田森林管理署長　田中　直哉

１　管内概要



利根沼田森林管理署は、群馬県の北東部、利根川上流域にある沼田市と利根郡４町村を管轄区域とし、約 97 千ｈａの国有林野を管理しています。

管内の国有林野は関東平野の上流域の水源地帯に位置し、国有林野の 65%を水源かん養保安林に指定しているなど、首都圏の水がめとして重要な役割を担っています。

国有林は、標高 600～2,500m の里山から奥地山岳地帯まで及んでおり、約３割を占める人工林はスギ（24%）・ヒノキ（９%）・カラマツ（40%）等が標高 1,500m程度まで植栽されています。天然林はコナラ・クリ・ブナ・ミズナラ・カンバ類などが主で、国有林の約７割を占めています。

豊かな自然環境のもと、スキー場や自然観察教育林、風致探勝林など、レクリエーションの森が数多く設定されており、都心から比較的近い位置にあることから、谷川岳、皇海山（すかいさん）、武尊山（ほたかやま）等への登山、スキーなどの森林を利用したレクリエーション、保健休養の場としても多くの人々に利用されています。

また、広範囲にブナ林が生育しているなど原生的な自然環境を有しており、上信越高原、日光、尾瀬の国立公園や自然環境保全地域等に指定されています。

その他の詳細な概要については、利根沼田森林管理署について：関東森林管理局をご覧ください。

なお、戦国時代、交通の要衝であった利根沼田地域は、上杉氏、武田氏、北条氏の争奪の地でありました。ブラタモリ「真田丸」スペシャル！でも取り上げられ、フランスの教科書にも掲載されている、巨大な「河岸段丘（かがんだんきゅう）」は、高低差が約 70mあり、真田氏は、その地の利を活かして沼田城に南方から何度も攻め寄せる北条氏の猛攻を守り抜きました。今は、「天空の城下町」として、観光ＰＲに活用されています。



雨乞山（あまごいやま）から望む河岸段丘と子持山（こもちやま）

２　署の特徴

利根沼田地域は豊富な森林資源に恵まれ、歴史的にも木材生産が盛んで、江戸時代には城や橋等の建築用の旺盛な木材需要に応えていました。今も市内には「材木町（ざいもくちょう）」の地名があり、往時を偲ぶことができます。

現在でも、関東森林管理局管内で、収穫量、販売量、造林事業等の事業量は上位であり、旧前橋営林局時代は、管内で最大規模の事業量を誇っていたと聞いています。

また、森林整備事業や治山事業に加えて、豊かな自然環境と首都圏からの近さを活かして、関東森林管理局管内で森林空間利用林とレクリエーションの森の面積が１位となっており、国有林野を地域振興のため存分に活用していただいています。



たんばらラベンダーパーク：沼田市提供



川場スキー場

その他、他の署では例が少ない目立った取組を紹介します。

(1) 赤谷（あかや）プロジェクトと連携した森林施業

生物多様性の復元及び持続的な地域づくりを目標とした「赤谷プロジェクト」を、地域や自然保護団体と連携しながら取り組んでいます。自然再生に向けて、効果的な天然更新の試行や猛禽類の生息に適した森林施業を実施しています。

① 渓流環境の復元

茂倉沢（しげくらざわ）の治山ダム改修にあたって、中央部の一部を撤去し、上流と下流の水の流れを確保し、渓流本来の姿の復元を図りました。

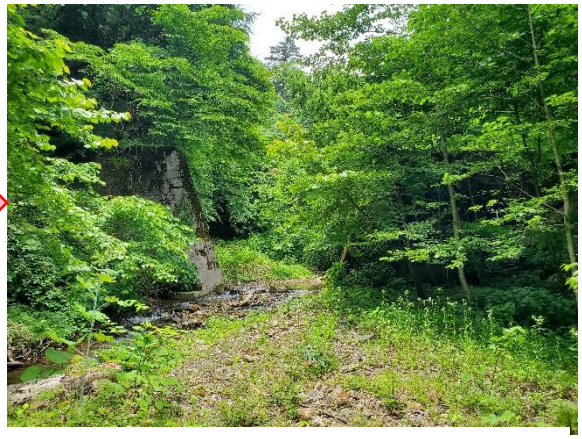
小職が以前、赤谷森林ふれあい推進センター在職時に実施しましたが、一部撤去にあたっては他に例を見ない事例であり、大手新聞社はもとより赤旗から週刊プレイボーイまで多くのマスコミから取材対応が殺到し大変だった思い出があります。

また、施工にあたっては、希少猛禽類クマタカの繁殖に妨げとならないよう、工期を調整しました。

約 20 年が経過し現在では、原生的な渓流環境が復元され、長い役人人生で少しは良いことができたと感慨深いです。



中央部撤去の施工直後



復元された渓流環境

② イヌワシの狩場創出



自然保護団体の意見を踏まえた伐区を設定

希少猛禽類イヌワシの繁殖率向上のため、営巣地周辺を順番に皆伐することにより、イヌワシの餌となるノウサギやヤマドリ等の生息地を確保し、狩場を創出する試みに取り組んでいます。

モニタリングの結果、施業地に繁殖期の飛来も確認されており、繁殖率向上のため一定の効果があったと評価できています。ここで得られた知見は、全国の希少猛禽類に配慮した森林施業に大いに参考となると考えます。

(2) ニホンジカ被害対策

造林地に大きな被害をもたらすニホンジカ被害対策は、地域において喫緊の課題であり、委託事業による捕獲の他、地元猟友会と連携して、職員による直接捕獲を春季と秋季に２回実施しています。



職員による直接捕獲

その中で、捕獲したニホンジカの処理には、運搬や山中での埋設に多くの労力がかかり、対応に苦慮しているところです。

そこで、残渣減容化処理施設（ざんさげんようかしょりしせつ）として、直径１ｍ、深さ３ｍの大型排水管を昭和村の国有林内に設置し、今年度から捕獲したニホンジカに発酵促進剤を加えて投入し、自然分解により減容化して処理することを開始しました。春季に２１頭処理することができ、従来と比較し、効率的な捕獲を実施することができました。

なお、管内のみなかみ町とは今年の２月に「野生鳥獣の捕獲のための施設の取扱いに関する協定書」を締結しており、これに基づき、残渣減容化処理施設の設置の拡大を赤谷プロジェクトと連携しながら進めていく予定です。

また、植栽木をニホンジカから守る対策として、単木保護資材（ソダチーナ）の設置も進めています。まだ試行段階ですが、引き続き効果の検証を進めていきます。



国有林内に設置された残渣減容化処理施設



単木保護資材の現地講習会

(3) カシノナガキクイムシ被害対策

コナラ等のナラ類に枯死被害をもたらすカシノナガキクイムシ（以下、「カシナガ」という。）被害は、平成 22 年（2010 年）に群馬県で初めて、管内国有林で発見されました。その後、被害対策を講じて一旦は沈静化したものの、近年は猛暑暖冬が原因と推測される大量発生により、被害が拡大しています。

そこで、ナラ類の丸太を大量に椪積し、カシナガを誘引・捕獲する「大量集積型おとり丸太」を設置し、その効果を山形大学と共同調査しています。

今年度は、誘引されたカシナガの個体数から、周辺の約 700 本のナラ枯れを防止できたと推計されました。これらの調査結果を踏まえ、おとり丸太による効果的な防除方法や設置場所等について改良を進め、カシナガ被害拡大防止対策を講じていきたいと考えています。



大量集積型おとり丸太の設置

(4) 林地施肥による植栽木の初期成長促進

現在、低密度植栽、成長の早い特定苗木（とくていなえぎ）を植栽し、下刈り回数の削減による造林コストの削減が各地で取り組まれていますが、それに加えて、当署では今年度から、植栽木の成長促進を図るため超緩効性肥料マウントキングＳを施肥し、無施肥の場合との対照実験を実施しています。

施肥して、半年足らずですが現時点でも明らかに樹高と根元径の成長が良く、初期成長促進効果による下刈り回数の削減に期待ができます。

得られた成果が他の地域でも普及できるよう、引き続き検証を継続します。



施肥された植栽木

（白い粒が超緩効性肥料）

３　地域と国有林

管内の市町村について、主に国有林との関係を中心に、簡単ではありますが紹介します。

(1) 沼田市



新緑の吹割の滝：沼田市提供



玉原湿原での地元協議会による
自然観察イベント：沼田市提供

「東洋のナイアガラ」と謳われる国の天然記念物及び名勝に指定されている「吹割（ふきわれ）の滝」が観光名所として有名です。遊歩道も整備されており、森林浴も楽しめます。流れる片品川（かたしながわ）は、群馬・栃木・福島の３県境の黒岩山を源としており、豊富な水量で、地域を潤しています。周囲の森林の一部は国有林です。

また、平成２年（1990 年）、森林文化につつまれた人間都市・沼田の創造、人と自然が真にふれあう理想のまちをめざした、全国初の「森林文化都市宣言」が行われました。

この具体化のため市では様々な取組をしてきましたが、その一環として、昨年 12 月、地域生物多様性増進法に基づく「森の博物館 玉原（たんばら）」保全活動実施計画が認定され、ブナ林や玉原湿原を含む国有林野 128ha が 30by30 目標に達成のための「自然共生サイト」として登録されました。

さらに今年８月には、国立公園等の保護地域以外で生物多様性保全に資する地域「ＯＥＣＭ」として、国際データベースに登録されました。署では引き続き、地域の多様な主体と連携し、生物多様性の保全が図れるよう、技術指導や助言等の支援に取り組んでいきます。

(2) みなかみ町

「自然と共生するまちづくり」に長年取り組んできており、平成 29 年（2017 年）に町全体がみなかみユネスコエコパークに登録されました。

令和６年（2024 年）には、登録７周年にあわせて「ネイチャーポジィティブ宣言」をしています。これは、みなかみユネスコエコパークにおける自然環境・生物多様性の保護・保全の取組を推進し、人と自然が共生する持続可能な未来の実現を目指し、自然を活かしながら、地域振興や地域の魅力を広く発信することなどを目的としています。多くのエリアが国有林で、前述の赤谷プロジェクトのエリアでもあります。



谷川岳・一ノ倉沢

みなかみユネスコエコパークの核心地域には上越国境の谷川連峰がありますが、「緑の回廊 三国線」でもあり、小職は着任してから２回縦走しました。今年は５月に縦走しましたが天候も良く、雄大な稜線からの風景、満開の高山植物には大いに感動しました。

職場から毎日のように眺めていますが、稜線がガスっている日が多く、山小屋の御主人もなかなか晴天が続かないと言っていました。登山が好きな方は、是非、天気予報と睨めっこして、縦走にチャレンジしてみて下さい。



谷川岳山頂のハクサンイチゲ



谷川連峰「緑の回廊　三国線」

(3) 川場村



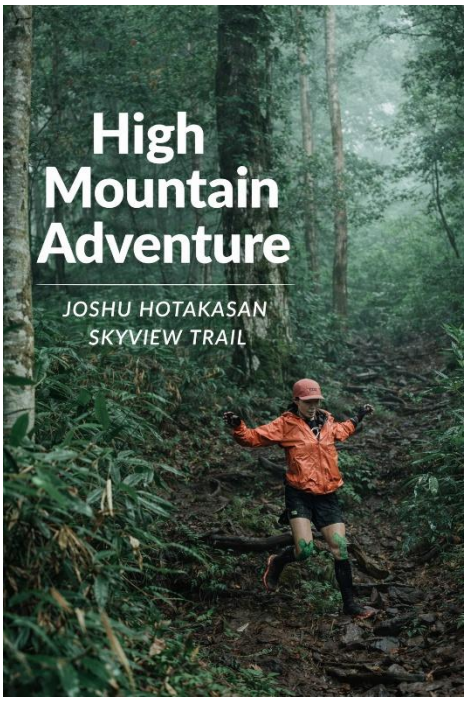
道の駅「川場田園プラザ」：川場村提供

里山や田園景観を生かした「田園理想郷」を目指して地域づくりを進めています。道の駅「川場田園プラザ」は、全国道の駅グランプリ「満足度の高い道の駅」で２年連続全国１位に選ばれました。休日には他県からも多くのお客が訪れます。地酒や地産地消の飲食店・農産物、遊具施設もあり、一日のんびり過ごすことができます。ミート工房のボリュームたっぷりの「山賊焼き」と川場ビールのセットは、小職のお気に入りです。

毎年９月に開催される「上州武尊山（ほたかさん）スカイビュートレイル」は、日本百名山の武尊山（標高 2,158m）を舞台に開催される、長大で本格的な山岳トレイルランニングレースです。

開催にあたっては、川場村に無償貸付している国有林内の歩道等を活用して実施しており、安全確保のためルート近くの生産事業を一時的に休止したり、関係者と事前に十分な連絡調整を図っています。

距離だけではなく高度、地形、気象条件によって成立する山岳レースで、稜線、森林限界もあり、山岳での適切な判断が求められます。ハードなトレランに興味のある方は、是非、ご参加ください。



森林の中に作られたトレイルランニングコース：大会実行委員会提供

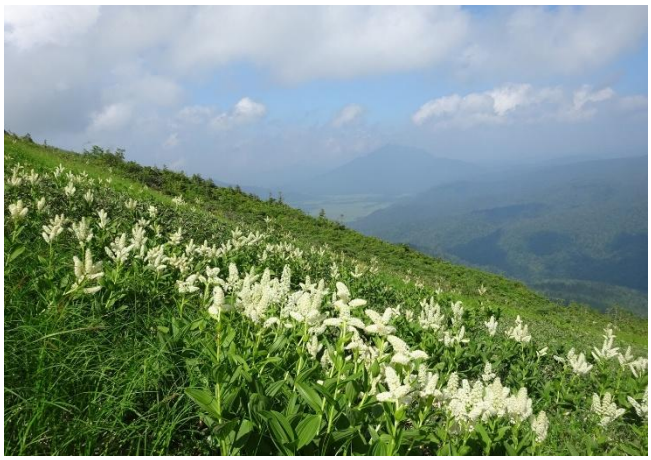


役場庁舎２階のホワイエ：川場村提供

また、川場村では豊富な森林資源を活用して、村有林で伐採された木材をふんだんに使い、役場庁舎を木造で新築しました。むらの学習館、エネルギーセンターも一体的に整備され、「川場ベース」として効率的な行政の推進に貢献しています。林業関係者の視察も多数あります。

(4) 片品村（かたしな）

片品村といえば尾瀬湿原の水芭蕉を思い浮かべますが、群馬県側には国有林は所在していません。東京電力リニューアブルパワー(株)が保全管理しています。特筆すべきは周知のように、この場所が日本の自然保護運動発祥の地であることです。かつて、この地で水力発電用のダム建設が計画されましたが、美しく貴重な自然環境の保護のため中止となり、今は観光資源として片品村の振興に大きく貢献しています。開発と自然保護の両立について、考えさせられる場所です。至仏山（しぶつさん）は花の百名山で高山植物の宝庫です。



至仏山・コバイケイソウのお花畑から望む尾瀬湿原、燧ヶ岳（ひうちがだけ）



満開のレンゲツツジと武尊牧場：片品村提供

武尊（ほたか）自然休養林のある武尊牧場は、毎年６月になるとレンゲツツジが一面満開となります。標高が高く、夏は絶好の避暑地となります。

日本百名山の武尊山への登山口もあり、キャンプやグランピングも楽しめ、多くの登山客や観光客が訪れます。夜になると、周囲に明かりがないので、天体観察も楽しめます。

また、片品村では、「尾瀬かたしな森林ビジョン」に基づき、豊富な森林資源を再認識し、森林の持つ多面的な機能を将来にわたって持続的に発揮していくことを目指すため、「尾瀬かたしな森林ビジョン委員会」で、森林をどのように管理・活用していくかについて活発な議論がされています。この委員会には、当署の職員も参加して、航空レーザ測量によるＣＳ立体画像の作成、ゾーニング設定等について技術的支援を行っています。

さらに、今年６月には、改正森林経営管理法に基づく「森林経営管理支援法人」にフォレスターズ(株)を指定し、森林環境譲与税を活用し、地籍調査、森林ビジョンやゾーニングの策定作業を進めています。



フォレスターズ(株)を「森林経営管理支援法人」に指定

(5) 昭和村

冷涼な赤城高原の気候を活かした日本有数の高原野菜の産地です。「やさい王国」、「首都圏の台所」とも呼ばれ、都心でも昭和村で生産されたレタスやホウレンソウなどの野菜をよく見ることができます。また、コンニャクの作付面積は日本一です。

以前、当署の苗畑を廃止する際には、その跡地を村が買い取り、野菜畑として活用したこともありました。



高原野菜畑と武尊山：昭和村提供



道の駅「あぐりーむ昭和」：昭和村提供

当署の主要事業地の近くにある、道の駅「あぐりーむ昭和」は、昼食や業務の待ち合わせでよく利用しています。昭和村で生産された安くてボリュームたっぷりの新鮮野菜が販売されており、午後に行くとたいてい売り切れています。

なお、ネーミングの由来は、「アグリカルチャー(農業)」と「ドリーム(夢)」で、農業とそこに集まる人々の夢が広がるようにと願いが込められています。

4　結びに

当署は、歴代職員の皆様の尽力により、地域と良好な関係を築いており、地域からの大きな期待を感じることが多いです。今後も森林・林業の振興、安全・安心を確保する森林整備、木材の安定供給、鳥獣被害対策等を地域の要望に応えながら取り組んでまいります。多様かつ先進的な取組も多く、このため常日頃、職員にも自信と誇りを持って、業務に取り組んで欲しいとお願いしているところです。

また、文中で紹介しきれませんでしたが、登山やハイキングコース、温泉、観光名所、イベントなど観光資源がとても豊富です。是非、利根沼田地域にお越しください。



沼田城址公園の鐘楼：沼田市提供